

## 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂 検討に関する経過報告

歯学調査・研究チームリーダー  
東京医科歯科大学歯学部附属病院長  
嶋田昌彦

### 歯学調査・研究チーム実施体制

- 荒木 孝二 東京医科歯科大学教授  
天野 修 明海大学歯学部教授  
小野 和宏 新潟大学大学院医歯学総合研究科教授  
五島 衣子 昭和大学歯学部 准教授  
斉藤 隆史 北海道医療大学歯学部長  
○ 嶋田 昌彦 東京医科歯科大学歯学部附属病院長  
關 奈央子 東京医科歯科大学助教  
中嶋 正博 大阪歯科大学教授  
平田 創一郎 東京歯科大学教授  
前田 健康 新潟大学歯学部長  
松香 芳三 徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野教授  
○: チームリーダー  
(協力者) 石田 達樹 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構  
理事・事業部長  
犬飼 周佑 文部科学省 高等教育局医学教育課 技術参与  
上田 貴之 文部科学省 高等教育局医学教育課 技術参与

## モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた検討状況

- 1) 第1回歯学調査研究チーム会議(平成28年1月25日)  
改訂の方向性と今後の進め方(意見調査など)
- 2) 第1回連絡調整委員会及び専門研究委員会合同会議(3月30日)
- 3) 第2回歯学調査研究チーム会議(4月19日)  
基本方針、医学・歯学調査研究チーム合同打ち合わせ論点  
各委員の分担領域の決定と改訂案の作成作業
- 4) 第3回歯学調査研究チーム会議(5月30日)  
歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂素案(A~F領域)の検討
- 5) 第2回専門研究委員会(6月15日)  
歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂素案の検討
- 6) 第4回歯学調査研究チーム会議(7月11日)  
第2回専門研究委員会の意見を受け、改訂原案の作成
- 7) 第5回歯学調査研究チーム会議(9月20日)  
歯科医師に求められる基本的資質と能力、準備教育、臨床実習など
- 8) 第6回歯学調査研究チーム会議(11月10日)

## コア・カリ改訂における キャッチフレーズ

### 「多様なニーズに対応できる 歯科医師の養成」

国際的な公衆衛生や医療制度の変遷に鑑み、  
国民から求められる倫理感・医療安全、  
チーム医療、地域包括ケアシステム、健康長寿社会などのニーズに対応できる実践的臨床能力を  
有する歯科医師を養成する。

## 基本理念と背景

- 「多様なニーズに対応できる歯科医師の養成」を目指して取りまとめた
- 学生が卒業時までには修得して身に付けておくべき実践的能力を明確にして、客観的に評価できるよう示した
- 卒前教育、国家試験、臨床研修、生涯教育といった一貫性、卒前から卒後のシームレスな教育を見据えて改訂を行った
- 「求められる基本的な資質と能力」について、医療人として共有すべき価値観を医学教育と共通で盛り込んだ

4

## 改訂の概要(総論) I

- 医学モデル・コア・カリキュラムとの一部共有化
- 「歯科医師として求められる基本的な資質と能力」の実質化
- 超高齢社会への対応
- 「目標」の整理
  - 「一般目標と到達目標」を「ねらいと学修目標」に変更
- 臨床実習開始までの基礎模型実習を含めた、技能教育に関する学修目標について
  - 「 F. 相互演習・模型実習・シミュレーション実習」の新設
- 総量のスリム化

5

## 改訂の概要(総論)Ⅱ

- 教養教育と準備教育の整理
- \*印の廃止
- 歯科医師国家試験出題基準、臨床研修の到達目標との整合性
- 歯学用語の表記の整理
- 世界への発信

6

## 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの構成

- A 歯科医師として求められる基本的な資質と能力
  - B 社会と歯学
  - C 生命科学
  - D 歯科用医療機器(歯科生体材料、歯科材料・器械)
  - E 臨床歯学
  - F 相互実習・模型実習・シミュレーション実習
  - G 臨床実習  
臨床実習の内容と分類
- 準備教育については関連性が解るように組み込んだ

## A. 歯科医師として求められる基本的な 資質と能力

- 医学・歯学共通を基本としつつ、コンピテンシーであることを明確にするために、「資質」だけでなく「能力」を加えた
- これまでの「基本事項」を「歯科医師として求められる基本的な資質と能力」として9項目の下に「ねらい」と「学修目標」を定め、これまでの基本事項も含め改訂した

8

## A. 歯科医師として求められる基本的な 資質と能力

- 倫理、医療安全、チーム医療に対応
- 研究マインドの見直し
- 歯科医師としての倫理と研究倫理について
- チーム医療

医師、看護師、歯科衛生士といった他職種との連携によるチーム医療や、地域での医療、福祉、介護の連携、地域包括ケアシステムにおける歯科医師の役割等について、どのように盛り込むべきかを検討した

9

## B 社会と歯学

- 社会保障(医療制度)の変遷に対応した
- 地域包括ケアシステムの記載を追加した
- 個人識別、死因究明、虐待について内容を充実した
- 歯科による個人識別について  
(立法関係者等の意見を踏まえ、学修目標を検討)  
「歯科医師による身元確認や関連する死因究明等の制度を説明できる」の記載を追加した

10

## C 生命科学

- 全身疾患と口腔との関係で医科疾患を学ぶ上で基礎となる生命科学を修得するための内容に充実を図った
- 臨床歯学との重複を検討した

## D 歯科用医療機器(歯科生体材料、歯科材料・器械)

- 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(旧薬事法)を意識して、「歯科用医療機器の所要性質」を明示して検討した

11

## E 臨床歯学教育

- 超高齢化社会を迎え合併する全身疾患を理解する必要があるため、医師と連携するために必要な医学的知識として、代表的な医科疾患を記載し、内容について医科とも合同で検討を行った
- 臨床実習開始までの基礎模型実習を含めた、技能教育に関する学修(到達)目標を別に定めた

### F. 相互実習・模型実習・シミュレーション実習

12

## F.相互実習・模型実習・シミュレーション実習

- 診療参加型臨床実習に進む前に、臨床能力の知識だけでなく態度及び技能についてシミュレーション実習を通じて十分に訓練することが必要である
- 技能領域で学習すべき項目を、「F. 相互実習・模型実習・シミュレーション実習」として新設した。
- 共用試験 OSCEの出題内容については、この内容を元にして、医療系大学間共用試験実施評価機構が決定するものと考えられる

13

## G 臨床実習

- 臨床実習はコンピテンスベースの方向で検討した
- 全体構成として、診療の基本、基本的診察法、基本的臨床技能、チーム医療・地域医療および患者中心の医療で構成した
- 診療の基本は、臨床診断・治療計画および医療安全・感染対策の項目を挙げた
- チーム医療・地域医療に病診連携、多職種連携、訪問診療、地域包括ケアシステムのキーワードを入れた

## 臨床実習の内容と分類

項目	指導者のもと実践する (自験を求めるもの)	指導者のもとでの実践が望まれる (自験不可の場合はシミュレーション等で補完する)	指導者の介助をする	指導者のもとで見学・体験することが望ましい
診療の基本				
基本的診察法	シンプルに4つに分類した			
基本的臨床技能	実践する立場から考慮して検討した			
チーム医療・地域医療	た			

# 準備教育モデル・コア・カリキュラム

## ・見直し・削除の論点提示に対して

### 関連性が解るよう本体(下記)に組み込んだ

- A 歯科医師として求められる基本的な資質と能力
- B 社会と歯学
- C 生命科学

